

常設展示から

平和と人権資料館は、本市の「人権擁護都市宣言」〔昭和55(1980)年〕、非核平和都市宣言に関する決議〔昭和58(1983)年〕の趣旨を生かし、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、人権の大切さ等を次世代に伝える施設として開館しました。館内を平和・人権・環境の三つのゾーンに分け、いずれも資料展示と感じる展示で構成しています。

平和ゾーン

《平和を希求するまち堺》のコーナーでは、堺ゆかりの人々を紹介しています。堺出身の歌人 与謝野晶子(1878年～1942年)は1901年歌集『みだれ髪』を刊行し、女性の自我を表現するなど歌壇に多大な影響を及ぼしました。1904年に発表した日露戦争に従軍する弟を嘆いて歌った詩『君死にたまふこと勿れ』でも有名です。肉親への愛情とその戦争を理不尽とする心情を訴えたものですが、詩人・評論家である大町桂月には「教育勅語、さては宣戦詔勅を非議す。大胆なるわざ也」と批判されることとなりました。しかし、晶子は夫 鉄幹宛ての手紙の形で、命を軽んじるなどの世情を危険と非難し、「まことの心を歌いおきたく」と反論を発表しました。当館では『君死にたまふこと勿れ』だけでなく、『ひらきぶみ』と題された公開書簡の中のその部分も併せて紹介しています。

「情熱の歌人」と呼ばれた与謝野晶子ですが、女性の自立や男女平等教育の分野でも積極的な役割を果たしたとされています。その生家は先の戦争での空襲被災地に当たり、現在、生家跡碑や歌碑が設けられています。

《平和を希求するまち堺》コーナー



『ひらきぶみ』(抄)

